

桜蔭俳話会

第一二九回通信句会 選句結果

平成三十年春。選句数は五句、うち特選一句。

(○内の数字は、特選句数で選句の内数です)

5点	永き日やソーラーパネル野にずらり	幸子	4点①脇役へカーテンコール冴返る	才美
7点③	反骨の兜太優しき春の星	友子	寂庵の主の言の葉春光る	幸枝
2点①	余生では浜で鱧釣る夢ありき	眞壽	1点 大谷石切跡白く若葉風	幸
	高鳴れる蒼き血管花の冷え	安紀子	1点 湯の宿の食うて笑ふてみじか夜や	邦子
1点	接木なるクローン桜のうら若し	明美	1点①母の庭消へてしまひし藍微塵	かほる
4点	春陰や手術ランプは消へぬまま	かほる	7点②古稀からの青春もよし風光る	友子
1点	五月雨や土の中にも雨のあと	直子	3点 気がかりの一気に薄る花吹雪	安紀子
2点①	夕暮に花の色増す花の中	幸枝	友が呼ぶ句の筒料理す	直子
1点①	鹿の目の笑ふてをらず春の雪	のり子	1点 厭世や平和の願ひ新樹光	則敏
1点	春雷や伏せの構への警察犬	才美	4点②縄文人の住みし丘なり風光る	のり子
3点	薫風や放る小石の音清し	則敏	1点 春たつやおろしだんごのひと休み	眞三
6点②	枷ひとつ嵌めて憲法記念の日	守	2点①白髪の威風堂風光る	ツル子
	夕餉どきポイントたいたいて山椒汁	ツル子	龜鳴くや成果無きにも敢然と	ヤエ子
	花街の路地に西洋たんぽぽ黄イ	幸	1点 今年竹すくすく伸びて背くらへ	幸子
2点①	石楠花や女人高野の風やさし	ヤエ子	更衣白装束が風を切る	眞壽
2点①	柿若葉強き日射しを柔らげて	邦子	4点 木の芽張る椅子に凭れてスクワット	明美
	春風やほほなでゆきて歩の進む	眞三	春塵や外へ外へと喫煙者	守
8②	ロボットに体臭はなし緋のつつじ	守		
2点	つばくらめ駅舎を出たり入ったり	幸子		
1点	谷なりの数人座して梅見かな	眞三		
	かき氷やわらかな色誰と食ふ	直子		
6点①	飛花落花バケツの中の宇宙かな	かほる		
	青嵐強き唸りの大風や	邦子		
1点	春雨や爪弾く三味の糸のゆれ	幸枝		
1点①	春シヨール飛びぬし風の砂丘かな	明美		
6点	千年の木々や山藤からみを取り	ヤエ子		
5点	たんぽぽのはびこる鉢や母の留守	のり子		
1点	曙の風白きかな辛夷咲く	安紀子		
4点	木曾福島戦街道深緑	幸		
3点①	早春賦口ずさみつつ北開く	才美		
2点	夕闇に淡き裸身や白牡丹	眞壽		
	落椿掃くでもなくや色冴えて	ツル子		
1点	嬰兒や駆け抜け過ぎる夏座敷	則敏		
2点	行く末の決まらぬ老後おぼる月	友子		

「事務局からお知らせ」

○六月句会

六月三十日(土)午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行います。
兼題は、「青葉」です。

○七月句会

七月二十九日(日)午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行います。

○八月は、句会は休みです。

諸先生御選

あかざ名誉主宰 飯村 寿美子 選

◎ 柳ひとつ嵌めて憲法記念の日 増田 守

永き日やソーラーパネル野にずらり 辻 幸子

春陰や手術ランプは消へぬまま 松浦かほる

ロボットに体臭はなし緋のつつじ 増田 守

脇役へカーテンコール冴返る 恩田 才美

圓 主宰 村田 まみよ

◎ 飛花落花バケツの中の宇宙かな 松浦かほる

接木なるクローン桜のうら若し 古野 明美

春陰や手術ランプは消へぬまま 松浦かほる

五月雨や土の中にも雨のあと 服部 直子

ロボットに体臭はなし緋のつつじ 増田 守

末黒野主宰 小川 玉泉 選

◎ 縄文人の住みし丘なり風光る 柏尾のり子

反骨の兜太優しき春の星 藤本 友子

石楠花や女人高野の風やさし 岩野ヤエ子

つばくらめ駅舎を出たり入ったり 辻 幸子

行く末の決まらぬ老後おぼろ月 藤本 友子

頂点同人 鶴巻 ちしろ 選

◎ 反骨の兜太優しき春の星 藤本 友子

春陰や手術ランプは消へぬまま 松浦かほる

早春賦口ずさみつつ北開く 恩田 才美

湯の宿の食うて笑ふてみじか夜や 平野 邦子

木の芽張る椅子に凭れてスクワット 古野 明美

炎環主宰 石 寒太 選

◎ 反骨の兜太優しき春の星 藤本 友子

薫風や放る小石の音清し 坂本 則敏

たんぼぼのはびこる鉢や母の留守 柏尾のり子

厭世や平和の願ひ新樹光 坂本 則敏

木の芽張る椅子に凭れてスクワット 古野 明美

春燈同人 佐渡谷 秀一 選

◎ ロボットに体臭はなし緋のつつじ 増田 守

永き日やソーラーパネル野にずらり 辻 幸子

木曾福島戦街道深緑 稲葉 幸

気がかりの一気に薄る花吹雪 藤崎安紀子

木の芽張る椅子に凭れてスクワット 古野 明美